

→表面から 1 豊かな人間性の育成に関して（道徳・心の教育、友だち関係、学校の支援体制等） ①地震後のケアも含め、いつでも相談できるようスクールカウンセラーを常駐させてほしいです。 （回答）総合支援課 学校再開後は学校心理士会の協力を得て、全ての中学校区を対象にカウンセラーを派遣しました。5月16日（月）から18日（水）までの3日間はカウンセリングが必要な児童生徒の多い学校（29校）に、臨床心理士会のカウンセラーを含め、重点的に配置しました（27人）。 5月23日（月）から7月22日（金）までは、スクールカウンセラー（SC）を全ての中学校区に配置しました（全国の臨床心理士会のカウンセラー（32人）を含む）。 夏季休業後は、必要性の高い中学校区（30校）に、本市のSCに加え、全国の臨床心理士（15人）を配置するとともに、その他の中学校区についても、本市のSCを中心として、適切に対応できる体制を整えます。 平成29年度以降も中長期的にSCによる対応ができる体制づくりに努めてまいります。 ②子どもが主体的でないと感じる。「進んでやる」を強くしていただきたい。 （回答）指導課 子どもたちが主体的になるには、「自分たちでやりたい」「やってみたい」と思うような場をつくることが大切です。いつまでも教師（大人）主導では、子どもたちの主体性は育ちません。授業や行事等の中で、「できた」「またやってみたい」と思うような経験をたくさんさせて、次は子どもたちが自分で目標を見つけて活動できるような場をつくってまいります。 ③心の教育や友達関係は身近で難しい問題だが、学校での心の教育はどう進めておられますか。 （回答）指導課 「生命を大切に作る心」や「他を思いやる心」等、豊かな人間性を育てていくことは、とても大切なことです。学校の道徳授業では、これまでの自分の経験等を通して、自分を見つめる時間をとったり、学校行事やボランティア活動等、様々な学校教育活動全体で、体験を通して道徳的な実践意欲を高めるような取組を行っております。 ④良識ある人格形成に道徳の分野は欠かせません。指導法も含めご見解をお聞かせください。	（回答）指導課 道徳教育は、人間としての生き方を学び、豊かな心をはぐくむことをねらいとしており、学校教育の中でとても大事なものです。特に、道徳の時間において、子どもたちが自分の心を見つめ、自分の生き方について考えを深めるような、問題解決的な学習や役割演技、子どもと保護者が一緒にきまりやマナーについて学ぶ参加型の道徳の授業等、効果的な授業づくりを心掛けております。 ⑤学級の中には無作法や目を疑う言動があります。道徳の充実やさらに丁寧な対応を望みます。 （回答）指導課 （道徳の充実について） 道徳教育は、学校だけでなく、家庭、地域社会が連携して取り組むことで効果をなすものと考えます。特に、道徳の授業で使用し、子どもたちがその時間に感じたこと等を記入した「私たちの道徳」を家に持ち帰り、親子で「私たちの道徳」を読んだり、道徳の時間に学んだことについて話をしたりする「親子道徳の日」の実施を全小中学校においてお願いしております。これからも子どもたちの豊かな心の育成のため、道徳教育の充実を図ってまいりますので、ご家庭でのご協力をお願いします。 （生徒指導について） 児童生徒の基本的生活習慣の定着を図るため、小さなことから丁寧に指導し、良き行動面をしっかりと賞賛していくことが大切です。また自他を尊重する豊かな心の育成を図るために児童生徒の自己有用感（自分が必要とされていると感じること）を高めるとともに一人ひとりを大切に作る集団づくりを目指した学級経営に取り組みます。さらには家庭や地域、関係諸機関とも連携を図り、社会全体で児童生徒の健全育成に取り組みます。 ⑥人間性の育成方法について、昔と今とで変わった点はありますか。 （回答）指導課 昔と今とで大きく変わったことは、子どもたちの生活環境です。子どもたちの人間性は、毎日の生活の中で自然と育まれることが多かったのですが、今の子どもたちを見ていると、人と関わることに経験不足を感じます。人間関係の育成についても、以前は異年齢の子どもたちと遊んだりすることで、人間関係をつくってまいりました。他学年との交流等、学校生活の中で体験させる重要性を感じます。 →次号へ
--	---